

## 覚王山「仙田屋」さん

覚王山の登録地域建造物資産第46号「仙田屋」さんを訪ねた。千種区山門町、日泰寺参道にある。昔からよく通る商店街であり、このお店も知っていた。

先にレポートした瑞穂区「亀吉廣葉舗」さんに続き、「仙田屋」さんの歴史を知りたく訪ねることにした。ここは長年お世話になっている知人の親戚にあたる。その朝に連絡してもらったようで、店主の仙田宝太郎さんに快く迎えてもらった。

ざっと調べると、参道近くの登録地域建造物資産は第45号「二宮畳店」、第64号「いち倫」、第72号「加藤石材店」があった。この一帯は景観的・文化的価値を有する建造物が集積しており、昔ながらの下町情緒、風情が感じられる。

なごや歴まちネットでは「仙田屋」さんを次のように紹介している。

「昭和初期の建物です。和風の造りです。当時の人々の生活が偲ばれる建物です。当時のままで残されている屋根の棟瓦が立派で、当時のままと思われるショーウィンドウが、建物のセンスの良さ、時代感を醸し出しています。お店の看板も建物の雰囲気に合わせて造り直され、店主のセンスの良さと心意気が建物に込められていると思われます。限界に調和しているため、注意深く探さないと何気なく素通りしてしまいそうな建物です」

現店主の仙田宝太郎さんは、昭和6(1931)年に鶴舞公園近くで生まれた。昭和20年3月の名古屋空襲で家が焼かれ、敗戦の翌月、9月に現在地に移転した。仙田さんが旧制中学2年のときだった。今でも小学校時代を過ごした千代田、鶴舞公園のあたりが懐かしいという。この家は昭和10年頃に建てられたもので、空襲にあわず、そのまま引き継いで住んできた。家の造りから夏は涼しく、冬は寒い。お店でも、夏は蚊帳、冬は毛布がよく売れた。布団をはじめ数多くの商品を扱ってきたが、今はタオルやおしぼり、寝具などが中心だ。お店のなかは、そうした商品や大きな段ボールが山積みされていた。天井や商品の棚など、歴史を感じさせるものが多かった。

仙田さんは朝から夕方まで、店の奥におかれた小さな机の前に座る。そこから時代とともに変わる、日泰寺参道を行きかう人たちをじっと見つめる毎日だ。このレポートをもって、また「仙田屋」さんを訪ねたい。



(2017年4月9日)